

第6回 NREL 訪問

Visit to NREL



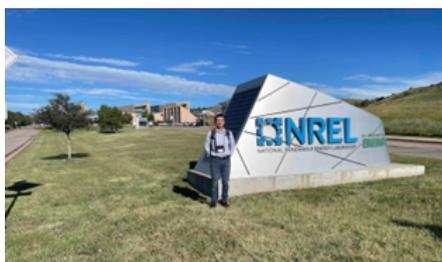
山田 昇（長岡技術科学大学）

読者の皆様にはどこか憧れの研究機関はありますか？ 私にとって米国の国立再生可能エネルギー研究所（National Renewable Energy Laboratory：NREL）は、この業界に入ってからずっと憧れの場所でした。そんなNRELに初めて訪問する機会があったので、この場を借りて簡単にご報告します。

はからずも2023年8月初旬にNREL主催のワークショップで講演をすることになり、自身の海外出張史上で最高額の航空チケット代を払ってコロラド州デンバーに飛びました。ワークショップはなぜかNREL本拠地からだいぶ離れたロッキー山脈の麓（といっても標高2000m超）のスキーリゾートホテルで開催され、数日間、缶詰状態でした。そこで人生初の高山病を味わうことになりました。ホテルの至る所に飲料水の蛇口とティッシュペーパーが置いてあり、なんでだろう？と始めのうちは疑問に思いましたが、ほどなくして高山病対策のためだということがわかりました。まず、トイレに行く回数が信じられないくらいに増えて、頻繁に水分を取らないとマズい状況になり、少し歩くと心臓の鼓動が高鳴り、鼻血が出ました。頭も痛くなり、ついに売店で酸素ボンベ（口に当てて吸うタイプ）を買いました。ほかの参加者は平気そうに見え、いったいどうなっているんだろうと思いましたが、なんとか講演を終えて、ついにNRELへの訪問となりました。太陽電池関連のラボなどを一通り見せてもらい、討論や食事をしたり、とても楽しい時間でした。私も

若いうちからここで働いていたらすごい研究ができたろうなどと身の程知らずな思いも浮かびました（すみません）。外国人がNRELに滞在して研究するのは難しいんだろうなと思いついていましたが、自分のお金（研究費など）で滞在する分には基本的にウェルカムとのことでした。ですので、若手の皆さん（もちろん若手ではない方も）、研究費を獲得してNRELに滞在してはいかがでしょう？私も機会があれば狙いたいと思っています。国際共同プロジェクトなどを立ち上げて一緒にいかがでしょうか？

さて、コロナ禍明けに久々に訪れた米国では、Uberが普及していたため、移動がとても簡単になりました（手配してくれたのは終始お世話になった明治大学の若手研究者の皆さんです。感謝）。注文でもチェックインでも、とにかく色々なことがスマホでできるようになっていて、逆にスマホが使えなくなったら恐ろしいという感じです（最近、日本でもそうですが）。ステーキはやはり美味しく、例によってサイズはとて大きかったのですが、お隣の高齢のご夫妻はぺろりと食べてました。そんなところにも力の差（何の？）を感じたりして、米国を後にしました。帰国後の人間ドックでは、ずっとあった腎臓結石が消えていました。おそらく人生でもっとも大量の水を飲んだせいです。これもNREL訪問のご利益だと思っています。さすがです。お世話になった皆様も本当にありがとうございました！



NRELの入口にて



有名な階段状の建物



美味しいステーキと酸素

